

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271500884		
法人名	営利法人 グループホーム輝の杜		
事業所名	グループホーム 輝の杜		
所在地	千葉県茂原市緑ヶ丘4丁目3番2号		
自己評価作成日	平成25年10月1日	市町村評価書受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-3-404		
訪問調査日	平成25年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気の中で、安心してより良い生活を送って頂けるように個別支援を行い、自治会行事・ボランティア・小・中学校の交流等地域の皆さんとの交流を重んじ大切にしています。
医療面においてもグループ医療機関の主治医が隣接されている為、医師・看護師との連携が常にとれる体制を整え利用者様に健康な生活を送って頂けるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は理念の冒頭に「利用者様の立場を理解し、介護に真心を忘れません」を掲げているが、全盲の利用者がフラワーアレンジメント作品、野菜の下処理、洗濯物をたたむなど日々普通の生活ができるよう、個々の利用者を理解し、真心をもって触れ合い、寄り添って利用者支援している。また、中学生から利用者一人一人への運動会招待状が届くなど、利用者は楽しく参加し、自治会が開催するバザーや夏祭りへも参加している。また毎月来訪のボランティアの三味線演奏や歌謡ショー等で利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域との日常的な交流に努めている。事業所関連医院による健康管理が家族の「通院介助」の悩みを解消している。車いすごと乗れる体重測定装置やリフト入浴など、利用者の安全と、職員の労働安全衛生面への配慮もきわだっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のケアの中で、常に理念の基本に立ち返り・確認し合うことで、職員一同が理念を共有し実践に努めています。	全盲の利用者が、フラワーアレンジメントを作成する、玉葱の皮むきをする、洗濯物をたたむなど日々普通の生活ができるよう、個々の利用者を理解し、真心をもって触れ合い、寄り添う職員の姿勢に事業所の理念が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事である夏祭りやゴミO運動・青空市場・小中学校の運動会等イベントにはすべて参加し、地域のボランティアの方々との会も設け交流を深めています。	中学生から利用者一人一人に絵模様の運動会の招待状が届き、利用者が楽しく参加している様子や自治会が開催するバザーや夏祭り、毎月来訪するボランティアの歌謡ショー等で楽しむ利用者の姿が記録されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会主催である奉仕活動・文化祭・運動会等に積極的に参加する中で、認知症である皆様と触れ合って頂くことで理解して頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域ボランティア・自治会代表者・茂原市役所の職員老人会・ご家族等に参加して頂き定期的に開催。地域行事への参加状態・ホームでの活動状況・イベント学ぶ会等を議題とし、話し合いや意見をもとにサービス向上・スキルアップにつなげています。	運営推進会議は2~3ヶ月に一度開催され、議事録に開催日、参加者及び職員の説明、家族、住民代表、地域ボランティア、職員、行政関係者の意見等が克明に記録され、それらはサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から運営面等不明点は相談し確認を行い協力関係を築いています。認定調査来所時には日々のサービスの事情・取組みを伝え連携を図っています。	担当課への訪問、介護認定に来訪する職員等と意見交換し相互理解に努めている。またホット見守り隊の一員として貢献すべく、市の開催する認知症サポーター養成講座に参加し行政や地域との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で職員全体で学習・確認・理解するよう努め抑制をしないケアに取り組んでいます。	定着率が高く自己判断力があり質の高い職員が多いことで、身体拘束をしないケアは十分に理解されている。また業務が多忙の際、スピーチロックが見られる場合があるので注意を促すと共に余裕ある介護に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止推進研修で学んだ事を職員全員が学び合い、虐待について正しい知識を学び、理解する事で「虐待はしない・させない」という姿勢を持ち防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	千葉県高齢者権利擁護研修を通して学んだ事を、社内研修の場で職員全員が、援助に必要な知識を高め、家族との対応の中でそれらを活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす際は口頭で説明しご理解いただいた上で署名・捺印をして頂きお渡しするようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や日頃の面会時に意見要望の場を設け運営に努めています。	利用者からの意見や要望は生活の場で聴き、家族からは面会の際に管理者がコミュニケーションを深めつつ意見を聴いている。また家族からは運営推進会議でも積極的な意見や要望がありこれらは運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表や管理者は日頃から職員の意見や提案等を聴く機会を設けています。	職員会議で意見を聞く他、機会あるごとに個別に職員の意見を聴いている。職員から入浴支援が大変になったとの意見が出され腰痛対策のために入浴リフトやバスリフトを設置する等、意見は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より職員一人ひとりに声を掛け、職員個々の努力や実績等に目を向け、事情に合わせ勤務状況を考え、向上心が持てるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップに関しての研修等に行く機会を積極的に進めています。必要な書籍等を購入して頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県第6ブロックグループ主催のスキルアップ研修・茂原市主催のフォローアップ研修や認知症サポーター養成講座へ参加する中で他の事業所と交流する活動をサービスの質に反映させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が入居する際は事前の情報を回覧し、受容共感・傾聴しながら安心して頂けるようまずは信頼関係を築くよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見や要望・悩みに耳を傾け、ご家族の思いに寄り添い関係づくりに努めています。面会以外に電話連絡等でも対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階は本人・ご家族の気持ちに応じられるような安心できる環境作りを心がける中で、それぞれの意見や思いを聴きとり支援を見極め、サービスへとつなげています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さまの尊厳を守り、理解し立場を考えながら、一緒に暮らす家族としてお互いが信頼しあえる関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にとり、利用者様と家族の絆を大切にしながら支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所に出かけ食事やコンサートを楽しみ、又入居者様の知人がボランティアに来て下さることで関係維持の支援に努めています。	民謡チャリティーコンサートやマンドリンコンサートへ出かけ利用者が馴染みの人と会う機会を設け、ウクレレ、三味線、ハーモニカの演奏や童謡や歌謡ショー等で訪れるボランティアが馴染みの関係を維持している。12月は正月用生花講習を予定している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わりの中でお互いに助け合い・支え合い、一人ひとりの個性を生かしながらよりよい関係を築いていくように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの連絡や必要に応じ対応し相談や支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式活用で利用者様一人ひとりの思いや・生活歴・暮らし方を理解し、サービス担当者会議にて本人本位の意向や要望の把握に努めています。	この課題も重要と考え、サービス担当者会議における全員の意見、日頃ご本人の希望の把握に努めている。経過記録等にも詳細な記述、それらの共有を示す家族の捺印などがある。家族アンケートの自由記述欄にも【本人の気持ちを把握して頂いて有難い】との記述が複数件ある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報・利用者様からのお話の中で把握・又以前の認定調査票・主治医意見書等を参考にし、センター方式へ記入することで情報を共有し支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り・毎月のミーティングの中で、事前に職員一人ひとりが記入したアセスメントシートを持ち寄り話し合い・情報を共有し現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開き、又ご家族とはサービス担当者会議を開催し、要望や意見を聴きケアプランに反映させ、プランの変更は定期的に実施し現状に即したケアプランを作成しています。	今回の評価で実施した家族アンケート調査では【ご家族との介護計画の共有が行われている】項目への支持が80%を超えている。日常的に経過記録・担当者会議録、アセスメントシートなど綿密な資料の家族との共有が行われ、制度の根幹が担われ利用者サービスに反映されている様子がうかがえる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をよく観察しケース記録や日誌に記入し、気づきの点は色を変えて記録をとり状況がひと目でわかるように工夫、スタッフ間で共有・見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスが併設、利用者様同士の触れ合いを目的にデイサービスの毎月の行事には参加し、又設備等の共有を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる生け花やフラワーアレンジメント教室・消防署立ち会いの避難訓練・中学校の生徒さん達の職場体験・演奏会等地域の方々のご協力もあり、交わりを深め豊かな生活を楽しんでいただけるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する宮本内科医院にて2週間に1度の往診を受け、又地域の訪問歯科利用等、日々健康で暮らしていけるよう支援し、医師との連携を密にとり適切な医療が受けられるよう努めています。	利用者調査結果にも【医師の日常的健康診断や変化時のホームの対応と信頼は家族には何物にも代えがたい安心】との記述がある。このことは家族が通院行動で悩まずに済む事業所サービスの基盤として利用者と家族に高く貢献している。	歯科診療にも受診準備にきめ細かい対応を行っている。歯科医にアセスメント、全身状況、呼吸に関する情報、服薬情報など、利用者の健康情報を提示し歯科医との連携を図っている。また歯科医が作成する義歯はフィット率が高いとの評価があり、利用者に喜ばれているという。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で変化のある場合は宮本内科医院へ連絡し、看護師に状況を説明、先生の指示を仰いでいます。又必要に応じ訪問看護も利用し適切な看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	入院先との情報の共有・ご家族を通しての情報交換を行い、又面会を通じて状態を把握して退院に向けての準備をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・宮本内科医院の院長・代表・管理者と、今後の方針性をしっかりと話し合い、家族の気持ちを受容し、地域の訪問看護・又看取りのケアプランをたて職員にも方針を説明しチームとして協力取り組んでいます。	この時期は介護計画を毎月送付し共有している。また独居の方もおられ、日頃の連帯感が緊急時の計画充実に寄与している。宮本内科医院からの往診と訪問看護支援、平成25年7月に登録の喀痰吸引も、看取りのケアプランの充実につながっている。	お別れのときは暮らしを共にした利用者と職員皆で最後のお見送りをする。またお仲間を見送りの後、小さなパーティをしてお化粧やおしゃべりの講習をするなど、利用者の気分が落ち込まないよう、さまざまな配慮を重ねている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	急変や事故発生時に備えての社内研修や消防署による応急手当の訓練に参加し、マニュアルを把握し実践力を身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	レクリエーションの一環として様々な時間帯で定期的避難訓練を行い全職員が身につけています。又夜間帯の災害発生時の連絡網での連絡実施も行い利用者様を安心・安全に避難できる体制を整えています。	訓練は決めた日にち・時間帯に限らず、随時災害発生に対応できるよう訓練のタイミングを工夫し実施している。利用者移動も車いす利用か、シート利用かなど臨機応変な判断力を養う目的がある。緊急用建具=防火扉の扱いに慣れるために作動をさせるなど反射的動作で利用者を守る訓練を行っている。	災害対策も受け身でない、建物レイアウトを前提に事業所独自の真剣な手法が常に討議されながら定着をしている様である。事業所の強い責任感とそれらに対応できる職員とのメンタルな結びつきが感じられる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや言葉かけは日々意識をし、社内研修の中で各自で確認し合い相互に声を掛け、一人ひとりの尊重とプライバシーを損ねない言葉掛けや行動に注意し、心と心の繋がりを大切にしながら笑顔で対応するように努めています。	利用者の尊厳を意識し介護すること、特に言葉使いに注意し、心のつながりを大切にするため方言の学習を行っている。不穏の際のコミュニケーションも大切にするため、四六時中の寄り添いとプライバシー確保を大切にしている。心の安定と尊厳を大切に、日々平穏に過ごして頂ける支援を行っている。	視覚に障害がある利用者とのよりよいコミュニケーションを模索し方言の勉強も開始している。聴覚に頼るコミュニケーションは支援の質を深め、心に届くよう言動の工夫をする支援も行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意向や希望を日々の対話の中でつかみ、それを表現できるように、又自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに焦点をあて、その方がどのように暮らしたいのか、何を希望しているのかを見極め、それを実現できるよう、その人のペースを大切にしよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により訪問カットを利用し、その人らしい身だしなみができるよう支援しています。外出の時等は、ご自分でおしゃれをたのしめるご利用者様はご本人の持っているセンスで、支援の必要な利用者様には洋服と一緒に選びおしゃれを楽しんで頂けるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存能力・個々の力を活かし、食事の準備と一緒に台所に立ち、野菜を切ったり盛り付けをして頂き、食後の食器拭きや片づけ等も手伝って頂いています。又献立を自由にできる日やティータイムは利用者様のお好きな物をお聞きし、食事が楽しみなものになるよう支援しています。	基本は家庭料理なので献立表に頼ることはせず、朝、昼、夕食の手作りを実践している。利用者の介護度による調理への参加もあり、余り物の活用など、家事のベテランの誇りを尊重し、美味しく楽しい食卓を基本としている。災害時用のストックも魚肉缶詰、高カロリー飲料、ガスコンロ、3日分を備蓄済みである。	ユニットごとに変化を持たせた昼食は、刻み海苔を散らした混ぜご飯や、カレー風味のクリーム色のご飯など両方食べたい盛り付けだった。車いすの方、食卓に座れる方など、利用者のその日の状態に合った摂食支援で、職員の手許には与薬準備があり利用者が守られていた。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じ食事形態を変え、主治医の指示のもと食事制限をされている方や体調等により食事量・水分量の確保が必要な利用者様には摂取量を記録し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・口腔ケアの実施は徹底しています。舌の汚れも口臭の原因・肺炎予防の為に個人の状態に応じ口腔内を清潔保持に取り組んでいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、一人ひとりのペースを把握し声かけや誘導を行うことで排泄能力の維持・向上を目指し排泄の自立を維持する支援に努めています。	プライバシーを大切にしながら自立を織込んだ個別支援が徹底している。布製6名、リハパン6名、夜間だけ、あるいは昼夜おむつを必要とする方がそれぞれ3名と、入居後の軽度化が進んでいる。	食事や与薬をはじめ、利用者が守られているホームでの心の安定からか、排せつの自立も進んでいることが布製6名という数字で示されている。排泄が自立となった実感は、計り知れない感動と思われる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養面での献立・飲食物の工夫、個々に応じた散歩やリハビリ体操を実施し、日々の生活リズムを整え予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの残権能力に応じバスリフトや入浴用リフトを利用し、又入浴がお好きな方には希望にそった入浴をして頂き、コミュニケーションをとれる場としてゆったりと入浴できるよう支援しています。	珍しいバスリフトが採用され、利用者の心地良い入浴と安全が保たれ、また腰痛などの職員の労働災害が防がれている。衛生面でも掃除・管理などが徹底できるような設計で、利用者の皮膚疾患にも奏功するものと思われる。厚労省、ハローワークによる【介護労働環境向上奨励金】等の施策を活用し、法人代表、管理者との協働で設置された。	小規模多機能型居宅介護支援事業所で設置された【シャワーいす】=座ったまま体幹に向けた温シャワーで利用者の体を包むように洗える機具を見たことはあるが、車いすのまま体重測定ができ、リフトのまま浴槽に浸かれるのは感動的である。職員の罹患は全治が困難な腰痛予防器具としても普及を望みたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者様の生活リズムやその日の体調等を把握し、一人ひとりが心地よく休息したり安心して過ごせるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬品服用表を常時ケース記録のファイルに添付し確認・理解に努めています。症状の変化は申し送りノートに記載し職員全員に伝わるよう努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の要望によりコンサートや演劇鑑賞に出かけ気分転換をして頂き、又ホーム内の大運動会を開催し達成感や楽しみ・希望等も実現し有意義な日々が送れるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	特筆すべき成果
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の要望や体調に合わせ、季節の花を楽しめるコースに散歩に出かけたり、花々鑑賞等のドライブや外食、又ご家族や地域ボランティアの方々の協力のもと、ふるさとチャリティーコンサート・マンドリン演奏会や中学校の文化祭への行事参加等実施に努めています。	外出支援に関する映像やお便りが多くみられる。交通事情などから頻回の外出支援などではできないが、季節の花を楽しむドライブ、楽器演奏会、外食など多彩なメニューである。ほとんどの事業所でのこのアンケート調査への反応は鈍いが、外出自体を覚えておられない利用者が多いのも事実であり、ご家族には行事写真で利用者の楽しい時間を確認して頂きたいと思う。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の所持品は金庫にて管理し、買い物・外食・希望される品物の購入時には対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙については利用者様より、希望時に対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや気温に常に配慮し、廊下・リビング等の飾り物は利用者様と一緒に実施し生活感・季節感を採り入れ居心地の良い生活の場となるよう工夫しています。	2階、3階ともリビングは広く開放的である。スタッフの縦横の活動を助ける配置でダイニング、浴場、トイレなどの作業動線、奥まった法人代表室などが配置され、管理面、防災面の配慮が感じられ、設置後の年数を見ても新鮮に映るのは、作業効率などを考慮した周到な当初設計によるものなのか。事業所内の活力は何に由来するのか、福祉事業への理念がユニバーサルデザインを経て存在している。	活力満杯のこの事業所の居住性は利用者にとって健康的で良好なかもしれない。虚飾抜き美味しい献立、排泄の自立支援、職員を腰痛災害から守るリフト浴槽、どこを歩いても寂しさを忘れる共用空間と居室、利用者に寄り添おうとの学習と実践、そして【家族を通院行動から解放している医療連携】など、この事業所特有の努力が注がれている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ・廊下にも長椅子をセッティングし、自由に過ごしていただくつろぎの場となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様本人の心地よいと感じるもの・求めている物を理解し心地よい生活を送って頂ける様に本人や家族と相談しながら支援しています。	普通の家庭の居間であり、飾り立っていないのが安らぎであろうと思われる。事業所に対して【ありがとう】という言葉が口を突いて出る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり	ホーム内は、安全に安心して頂けるよう環境設備に努め、個別にケアをし自立した生活が送れるよう工夫しています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

(今回の評価を元に次年度への目標を記入して下さい。今年度評価書と共に県およびWAMNETに掲載されます。)

事業所名: グループホーム 輝の杜

作成日: 平成25年10月24日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないように、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら優先して取り込む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	猛暑による熱中症や、インフルエンザ、感染症等の対策のため、夏場や冬場の外出が消極的になってしまうので、楽しみごと、気分転換等の工夫が必要。	日常的な外出支援	夏・冬場の外出を計画的に起案し、実施。積極的な働きかけをする。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。